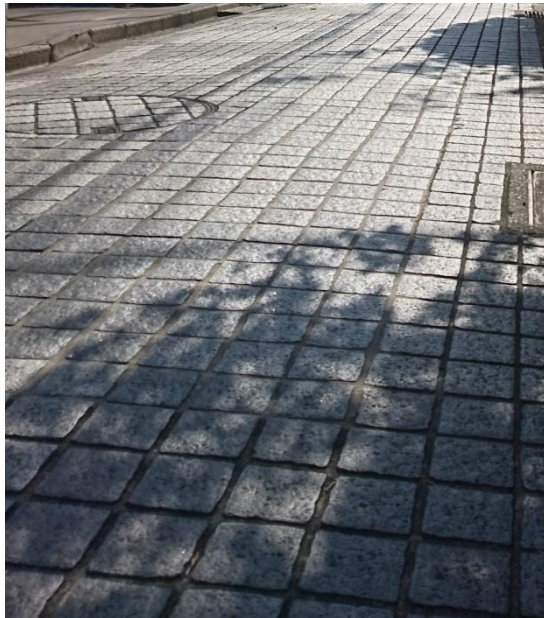


さよなら芸者新道、ありがとう神楽坂。



江戸後期に毘沙門天（善国寺）が移転してきたことから
茶店が軒を連ねるようになり、
その後花街として栄えてきた、神楽坂の街。

関東大震災でも火災を免れてさらに賑わいを増し、
昭和 12、3 年の最盛期には約 150 軒の料亭や置屋がひしめき、
600 人を超える芸者さんがいたそうです。

当時、一刻を争ってお座敷に向かう芸者さんが
料亭への移動を“ショートカット”する抜け道として作られた……
といわれる「芸者新道」。

神楽坂最大の横丁である本多横丁から神楽坂仲通りへと抜ける路地で、
風情ある石畳が続く、ゆるやかな坂道です。

そんな「芸者新道」の一角に
CURETEX のショールーム兼アンテナショップ
〈CURECLUB CAFE & SHOP〉がありました。

毘沙門天のほど近く、
本多横丁から「芸者新道」に折れてすぐの
ちょっと奥まったビルの 2 階です。

「ありました」と過去形なのは、
移転準備のため、残念ながら
2018年9月21日(金)をもってクローズとなったため。

2010年12月に〈風雅すたいる〉としてオープンし、
2017年10月からは〈CURECLUB CAFE & SHOP〉として営業。

自社の和紙繊維製品の販売のほか、
カフェスペースでは、
肉を使わないゆるベジメニューのランチや惣菜を提供するなど、
CURETEXならではのライフスタイルを発信してきました。

和紙繊維製品のクチコミを頼りに
遠くからわざわざご来店くださったお客さま。

ランチプレートを楽しみに
毎週のようにご来店くださった常連のお客さま。

神楽坂散策の途中でふらりと立ち寄られ、
ひとやすみのついでに買い物を楽しまれたお客さま。

8年にわたり、さまざまなお客さまにおいでいただき、
親しんでいただいた〈CURECLUB CAFE & SHOP〉ですが、
新たなステージを求め、この地での歴史に幕を下ろすことに。

夕暮れ時、ともし始めた灯りが石畳に映える芸者新道は、
粹で優雅でせつなく、なんともいえない情緒があります。

お別れは少し寂しいけれど、
またいつでもふらりと来ればいい。

さよなら芸者新道！ ありがとう神楽坂！